

【加藤ゆうすけの政策集】
なんどでもチャレンジできるまち
2019年4月版



もくじ

1.	はじめに	4
2.	3つの理念	6
	・ なんとでもチャレンジできるまち.....	6
	・ 地域で頑張る人が輝けるまち.....	6
	・ じぶんごと化できるまち.....	6
3.	政策集	7
	・ 基本方策 政策実現への近道＝「若者支援」	7
	・ 1. こども若者の居場所と未来をつくります。.....	8
	・ 小学生の放課後の居場所として、学童クラブを46小学校区全てに整備します。8	
	・ 日本一高いと言われる、学童クラブの保育料を下げます。.....	8
	・ 学校に行けない子が、学校以外で学習した場合も、出席として認められるようにします。.....	8
	・ 夜間(18-21時)使用可能な公共施設を利用した「居場所」づくりを行います。 . 8	
	・ 変化の激しい未来を生き抜けるよう、公教育を通じた小中学生の学力の底上げに取り組みます。.....	8
	・ 2. 子育て世代が子育ても仕事も両立できるようにします。.....	9
	・ 認可保育所の待機児童ゼロ、保留児童減少を目指し、「受けたいときに受けたい保育が受けられる」ようにします。.....	9
	・ (※新規)学童クラブの運営に、市がしっかりと責任を持つ体制づくりをします。9	
	・ (※新規)教職員の働き方改革を応援し、ワークライフバランスを整えます。 . 9	
	・ 3. 高齢社会を「チャンス」と捉え、高齢者の活躍の場をつくります。.....	10
	・ 公立中学校の部活動の指導を、地域の高齢のかたが仕事としてできるようにします。.....	10
	・ 60歳以上のかたが、新しく、地域のためになる、小さな事業・活動を始める後押しをします。.....	10
	・ 4. 地域のひとのチャレンジを応援します。.....	10
	・ 5. 健康な生活習慣を大切にする風土をつくります。.....	10
	・ 6. 高齢、持病、障害、セクシャルマイノリティ、母子・父子家庭…何があっても自分らしくあり続けられるまちにします。.....	11
	・ (※新規)女性の活躍を推進します。.....	11
	・ 性自認や性的指向にかかわらず等しく尊重され受容される社会をつくります。11	
	・ 理解されにくい病気や障害について知ってもらうきっかけをつくります。....	12
	・ (※新規)認知症になっても安心して暮らせる地域をつくります。.....	12

- ・ 7. 誰もが納得して最期を迎えられるようにします。..... 12
 - ・ 高齢の障害者が、納得できる最期を迎えられる体制をつくります。..... 12
 - ・ 合葬墓や自然葬など、個人所有の墓以外の最後の在り方を人・ペット共に選べるようにします。..... 12
- ・ 8. 地域社会の中で子どもも大人も学びあえるようにし、異なる世代をつなぎます。
13
 - ・ 市内高校生の市内企業での実践型インターンシッププログラム(合計 120 時間程度)を実施し、将来の地域人材を育て、市内企業とのマッチングをはかります。... 13
 - ・ 市内中学生へ地域課題解決型のプロジェクト型学習を実施し、子どもの主体的な学びを引き出します。..... 13
- ・ 9. 地域固有の文化芸能と景観を尊重した観光づくりをします。..... 13
 - ・ 陸路と海路を活用した観光コースづくりを行います。..... 13
- ・ 10. 多様な働き方を応援し、未来の雇用をつくります。..... 14
 - ・ 場所にとらわれない仕事を横須賀市内に創出します。..... 14
- ・ 11. 行政の取組みを「それ、本当に、必要ですか?」としっかりチェックします。
14
 - ・ 事業の社会的価値を評価する指標等を用いて、市外の専門家を交え行政の取組みを客観的かつ数値的に評価します。..... 14
 - ・ 今後増え続ける社会保障費を少しでも補うため、公共施設更新の実施計画については、さらに厳しいチェックを続けます。..... 14
- ・ 12. 議会のありかたを見直します。..... 14
 - ・ (※新規) 議員定数・議員報酬・政務活動費を見直します。..... 14
- ・ 13. (※新規) 地域防災のありかたを見直します。..... 15
 - ・ (※新規) 災害時、ペットもひと命を守れるようにします。..... 15
 - ・ (※新規) 福祉避難所の開設手順を見直します。..... 15

1. はじめに

「もっと横須賀を良くしたい！」と思う人が、いつでも、なんどでもチャレンジが出来る、周りから応援される風土をつくるため、2017年6月に市議会議員になりました。私は2019年4月現在31歳です。物心ついたときには、日本は「失われた20年」と呼ばれる停滞期にいました。チャレンジする人が現れず、少し成功すれば徹底的に叩かれ、失敗すれば笑われる。「チャレンジが大切」「みんな違ってみんな良い」というメッセージが世の中に溢れているのに、チャレンジが応援されず、人と違うことを理由に排除される。そんな雰囲気の中に育ちました。

また、情報通信技術の発達により、いつでもどこでも情報を得られるようになり、たとえ地方都市に暮らしていても世界中とつながり、多様な価値観を得られる世界になったにも関わらず、「男なんだからしっかりしなさい」「女なんだからもっと相手をたてないと」「もう若くないんだからあまり出しゃばるのはよしなさい」「まだ子どもなのに生意気な意見を言うもんじゃない」「障害者なんだからおとなしくしてなさい」など、自分らしくあろうとする人に対して厳しい雰囲気が、いまだに根強く存在することも感じます。

そんな中、日本の総人口はついに減り始めました。横須賀市の人口も、1992年5月の43万7,170人をピークに減り続け、2013年には全国一「人が出ていくまち」¹となりました。谷戸地域や高台に住む高齢のかたが日常生活に困っています。子育て世帯が減り、子育ての悩みを共有できる場が消えつつあります。人口減少=悪では決してありませんが、人口減少が、まちの在り方を変えていくことだけは確かです。課題はどんどん増え、複雑になりました。市民が行政に求めるもの・行政がなすべきことも複雑・多様化しています。異なる世代・異なる価値観を持つ人同士の関わりが薄くなり、お互いを理解し合えなくなってきました。だからこそ、性別の違い、世代の違い、立場の違いを超え、対話し、互いを認め合い、旧くて良いものは大切にしつつ、新しい技術や考え方を積極的に取り入れ、明確な意思をもって、課題解決に取り組みねばならないと、強い危機感をもっていきます。

- 私は、2017年6月に市議会議員として選んでいただいた際、横須賀を、
- ✓なんどでもチャレンジできるまち=老若男女、いつでも何にでも取り組める。チャレンジすることが素晴らしいのだと称賛される。
 - ✓地域で頑張る人が輝けるまち=率先して課題解決に取り組む人が応援される。
 - ✓じぶんごと化できるまち=他人事にしたり、見て見ぬふりをしない。

¹ 「住民基本台帳人口移動調査」(総務省、2014年1月)によると、横須賀市の2013年の人口流出(社会減=転入数-転出数)は、-1,772人で全国第1位。対人口比で計算しても、1,772人÷409,340人=0.433%となり、神奈川県内で第4位。

へと変える宣言をしました。この政策集は、2017年6月に掲げた政策に、1年11か月の市議会議員1期目において取り組んだこと、さらには次の4年間で取り組みたいことなどを加えた内容で構成されています。初志は貫き、改善は絶えず行い、市政をより良いものへと変えていくための、加藤ゆうすけの政策集です。

横須賀をより魅力的にするためには、横須賀に住む一人ひとりが、身の回りの「変えたいこと」に少しずつ取り組んでいけるようにすることが、大切だと思います。誰かにお任せして他人事とするのではなく、一人ひとりが「じぶんごと」として捉えチャレンジするまちをつくれます。チャレンジには、失敗もつきもの。けれど、チャレンジしなければ、成功は絶対にありえない。全部じぶんごと化して、チャレンジする人を、讃えられるようにしたい。

だから、まずは私が横須賀の政治を変えるため、チャレンジします。

2. 3つの理念

■ なんどでもチャレンジできるまち

なんどでもチャレンジできるまちとは、老若男女、いつでも何にでも取り組める、チャレンジすることが素晴らしいのだと称賛されるまちです。言い換えれば、「自分らしくあり続けられるまち」です。男なんだから、女なんだから、もう若くないんだから、こどもなんだから、障害者なんだから…と、レッテルを張られることなく、自分らしくあり続けられるまちです。

■ 地域で頑張る人が輝けるまち

地域で頑張る人が輝けるまちとは、率先して課題解決に取り組む人が応援されるまちです。横須賀のことは、横須賀の人が決める。国や県、誰かえらいひとにまかせっきりのまちづくりはやめて、地域のひとりひとりが、できることからやってみようと思えるまちをつくっていきたいのです。

■ じぶんごと化できるまち

じぶんごと化できるまちとは、他人事にしたり、見て見ぬふりをしないまちです。「自分には関係ないこと」と思わずに、少し立ち止まって、相手の立場になって考え、「これだったら私できるよ！」と、自分にできることを探してみる。そんな人がたくさんいるまちです。

3. 政策集

※2019年4月に新たに追加した項目については、(※新規)と記しています。

※2017年6月から現在にかけて状況が変化した項目については、出来る限り現状を追記しています。

基本方策. 政策実現への近道＝「若者支援」

1. こども若者の居場所と未来をつくります。
2. 子育て世代が子育ても仕事も両立できるようにします。
3. 高齢社会を「チャンス」と捉え、高齢者の活躍の場をつくります。
4. 地域のひとのチャレンジを応援します。
5. 健康な生活習慣を大切にする風土をつくります。
6. 高齢、持病、障害、セクシャルマイノリティ、母子・父子家庭…何があっても、自分らしくあり続けられるまちにします。
7. 誰もが納得して最期を迎えられるようにします。
8. 地域社会の中で子どもも大人も学びあえるようにし、異なる世代をつなぎます。
9. 地域固有の文化芸能と景観を尊重した観光づくりをします。
10. 多様な働き方を応援し、未来の雇用をつくります。
11. 行政の取組みを「それ、本当に、必要ですか?」としっかりチェックします。
12. 議会のありかたを見直します。
13. (※新規) 地域防災のありかたを見直します。

■ 基本方策. 政策実現への近道＝「若者支援」

私の横須賀での政治活動の原点には、約5年に渡る福島での復興支援経験と、1年半の復興庁での行政経験があります。復興の過程で感じたのは、地域に暮らす人が自らの意志で動き出し、議論し、まちを動かすエネルギーの力強さ。さらにその過程には、必ず若い世代の姿がありました。

横須賀に戻り、議員として活動する中でも、若い世代への支援・これから生まれてくる市民への支援は、横須賀のくらしづくりに最も大きな効果を発揮すると強く感じていま

す。横須賀はすでに超高齢社会に突入し、世代を超えた協力が必要不可欠です。そして、これからの地域の担い手となる若者への支援は、必ず横須賀の未来の力につながります。

立派な建物や道路ではなく、「人づくりへの集中投資」「人づくりこそ、まちづくり」の思いで、市政に取り組み続けます。

■ 1. こども若者の居場所と未来をつくります。

- ◇ 小学生の放課後の居場所として、学童クラブを46小学校区全てに整備します。
 - 2017年時点で学童クラブ空白地であった逸見・走水・高坂・武山小学校区ですが、高坂・武山小学校内には学童クラブが2018年度に設置され、逸見小学校には公設民営学童クラブが2019年4月からスタートしました。残る走水小学校区について、放課後こどもが過ごせる場所の整備を進めます。
- ◇ 日本一高いと言われる、学童クラブの保育料を下げます。
 - 横須賀市内の学童クラブの月額保育料は平均16,676円（平成30年度）です。月額保育料が16,000円を超える学童クラブは、日本全国の2.7%しかないことから、「日本一高い学童クラブ」と言われます。小学校の余裕教室もしくは近隣公共施設内への移設を進め、賃料をかけないようにし、経費を下げ、保育料を下げます。
- ◇ 学校に行けない子が、学校以外で学習した場合も、出席として認められるようにします。
 - 制度としては、校長の判断のもと出席扱いとし、その成果を評価に反映できるようになっています²が、学校への復帰に向けての取組みであることが前提とされています。「学びは一生」なので、いつ学んでもよいと思っておりますが、現実的には、中学から高校へ上がる際の選択肢を広くすることがその後の人生に大きく影響しますし、そのうえで当事者の学習の成果が公的に認められることは重要になってきます。フリースクール、オンライン学習等を使用して学習しても出席として認められる、学び方の多様性を許容することを推進します。
- ◇ 夜間(18-21時)使用可能な公共施設を利用した「居場所」づくりを行います。
 - 教育・福祉を学ぶ大学生などの協力も得つつ、夜間(18-21時)使用可能な公共施設を利用した「居場所」づくりを行います。ショッピングセンターのフードコートなどギラギラした場所ではなく、落ち着ける場所。心身の不調で昼間外出しにくい若者、学校にも家庭にも居場所が無いと感じる若者が集い、活力を得られる場所です。
- ◇ 変化の激しい未来を生き抜けるよう、公教育を通じた小中学生の学力の底上げに取り組みます。
 - 「学力の底上げ」こそ、公教育が担うべき役割であると私は考えます。そのうえで、「学習のつまづきを放置しないこと」に注力します。本市の小学生の学力は、スタート時点でのつまづきが、後々まで影響していることが

² 不登校児童生徒が自宅においてIT等を活用した学習活動を行った場合の指導要録上の出欠の取扱い等について（通知）17文科初第437号、平成17年7月6日

想定される厳しい状況³にあります。これまでも議会の場で「学習支援員の増配等を通じた、課題を多く抱えた子に対する放課後の直接的な学習支援」⁴などの施策を提案してきましたが、引き続き、先生が生徒一人ひとりに向けられる時間を増やすことを目指します

- 学習塾が利用できない世帯向けの、夜間の公共施設を使った補習を実施します。これまで、「生活困窮世帯のこどもに対する学習支援事業に、居場所づくり・日常生活支援機能を併せ持たせることで、自分の学習をマネジメントできる力の育成＝社会的自立をはかる」提案を議会でおこなってきました⁵が、これはあくまでも福祉部が担う「福祉的取り組み」です。横須賀にいれば、お金が無くて、塾に行かれなくても大丈夫と言われる「教育」をつくります。

■ 2. 子育て世代が子育ても仕事も両立できるようにします。

- ◇ 認可保育所の待機児童ゼロ、保留児童減少を目指し、「受けたいときに受けたい保育が受けられる」ようにします。
 - 保育士の給与改善、認可保育所定員増は毎年行われていますが、待機児童ゼロがいまだ実現されていません。引き続き取り組みます。
- ◇ (※新規) 学童クラブの運営に、市がしっかりと責任を持つ体制づくりをします。
 - 1年11か月の議員1期目においては、児童の預かりを拒否したり、補助金の不正受給が内部告発により明らかとなり補助金を返還する事態となるなど、本市の一部の学童クラブに問題があることがわかりました。特に、学童クラブに対する本市の指導監督体制には、改善の必要性があります。保護者が留守の間、こどもが安心して過ごせる場所がなければ、保護者は安心して働くことができません。既に議会で厳しく質疑して⁶きましたが、今後もしっかりと注視します。
- ◇ (※新規) 教職員の働き方改革を応援し、ワークライフバランスを整えます。
 - 本市の先生の半数以上が子育て世代です。先生の働き方改革は、先生が児童生徒と向き合う時間を増やすためにも、先生自身の生活を豊かにし、先

³第2期実施計画期間最後の年度である平成29年度を対象とした「教育委員会点検・評価報告書」(2018年8月発行)を見ると、教科の指導内容の定着状況については、「横須賀市の課題として、小学校低学年の段階で学習内容の定着に課題があるということ、また、学習状況に課題のある児童生徒が少なくないということが課題であると明らかになっており、その課題に合わせた目標設定が必要である」との振り返りがなされており、学力向上には引き続き注力せねばならないことが明らか。

⁴平成31年3月定例議会 無所属みらい 代表質問。代表質問づくりは、会派で分担しておこなっていますが、教育に関する担当として質問作成しました。

⁵平成30年6月定例議会 加藤ゆうすけ 一般質問

⁶平成31年3月定例議会 教育福祉常任委員会および予算決算常任委員会教育福祉分科会

生としての能力を高めるためにも重要です。横須賀市教育委員会は2019年2月に「教職員の働き方改革の方針」を示しました。これが着実に実行されるよう、しっかりチェックします。

■ 3. 高齢社会を「チャンス」と捉え、高齢者の活躍の場をつくりま

- ◇ 公立中学校の部活動の指導を、地域の高齢のかたが仕事としてできるようにします。
 - 部活動の指導には、新たに「部活動指導員⁷」制度が設けられました。生徒はどの学校にいても、専門的な指導が受けられるように。先生は、仕事量が減り、生徒一人ひとりと向き合う時間を増やせるように。地域の高齢のかたは、スポーツ・文化活動を巡る豊富なご経験を地域の次世代育成に活かせるように。部活動指導員の増配を目指します。
- ◇ 60歳以上のかたが、新しく、地域のためになる、小さな事業・活動を始める後押しをします。
 - 「老後の蓄えをすべてつぎ込む一大勝負」ではなく、「地域のためになる身近な活動」を、スタート時の初期費用補助（備品購入、建屋の改装、事業計画策定支援など）で後押しし、地域課題の解決につなげます。

■ 4. 地域のひとのチャレンジを応援します。

- 「実行しながら、改善していこう」という精神で、地域発案のアイデアが素早く実行できるようにします。
 - Twitter、Instagram、facebook、LINEなどのSNSや、それらでバズる（＝ニュースが拡散すること）ソーシャルメディアの記事では、毎日のように地域の優れた取り組みを見かけます。しかし、発信を自分でできる地域のかたは、あまり多くありません。お金をかけずにPRすることが可能な時代ですので、地域のひとの先進的な取り組みを、積極的に取り上げ、発信できるようにします。

■ 5. 健康な生活習慣を大切にす風土をつくりま

- 環境やライフスタイルに配慮した生産・流通・消費を支援します。

⁷ これまでも、公立中学校の部活動には「技術指導者」が充てられてるクラブがあったが、大会への引率等が行えなかった。今回の「部活動指導員」は、引率等、顧問と同等の指導が行える役職であり、2019年度には3名を配置することが決まっている。

- 新鮮で、安全な食品を求める消費者に、横須賀産の食品を選んでもらえるようにします。「有機 JAS マーク」の取得や、食品だけではなく、化粧品など、からだに直接使う商品についても、国際的なオーガニック認定⁸の取得を支援したり、少量多品種生産、有機無農薬農業など、小規模でも個性ある農業を行う農業者の紹介・広報を市として積極的に行うなど、「からだづくりは横須賀で」をアピールします。
- 子どもの健康に有害な駅前喫煙を無くすため、条例で路上禁煙区域を増やします。
 - 現状では「ポイ捨て防止及び環境美化を推進する条例」として、環境美化の観点から路上禁煙がなされていますが、健康被害から市民を守る観点をより強く打ち出します。特に駅前喫煙の多い JR 衣笠駅・JR 久里浜駅周辺を目下の重点対象とし、これまでの議会質問⁹等の通り、行政に対策を求めます。

■ 6. 高齢、持病、障害、セクシャルマイノリティ、母子・父

子家庭…何があっても自分らしくあり続けられるまちにします。

- ◇ (※新規) 女性の活躍を推進します。
 - 21 世紀になってもまだ「女性の活躍を推進します」と改めて言わざるを得ない社会環境には心底がっかりしますが、落ち込んではいられませんので、改めて掲げます。この 1 年 11 か月の間には、社会構造に依然として存在するセクシャルハラスメントを告発する「#Me, too 運動」の盛り上がりなど、今まで声を挙げられなかった女性の運動が大きく取り上げられました。「2. 子育て世代が子育ても仕事も両立できるようにします」に記した政策の他にも、市職員管理職に占める女性比率の向上や、専業主婦世帯のみを想定してつくられた様々な仕組み（一例をあげれば、学校新学期の保護者会の日時や時間割の連絡が、直前にならないとわからない…仕事そんなに急に休めない…等）の改善に地道に取り組みます。
- ◇ 性自認や性的指向にかかわらず等しく尊重され受容される社会をつくります。
 - 性自認(自分がどの性別であるかの認識) や性的指向(恋愛感情や性的な関心・興味が向かう方向性)などに対する偏見により、つらい思いをする人は後を絶ちません。市内学校・企業等に対して、性的マイノリティに関する

⁸ Bio マークなどがある。

⁹ 平成 29 年 9 月定例議会 加藤ゆうすけ 一般質問

講座・研修を提供し、知ってもらふ活動を推進します。

- ◇ 理解されにくい病気や障害について知ってもらふきっかけをつくります。
 - 特に、就学年齢の児童生徒にとって身近な場に、認知症、うつ病、パニック障害、学習障害などを抱えるかたがいて、支え合って生きていくのが当たり前の環境づくりに力を入れます。
- ◇ (※新規) 認知症になっても安心して暮らせる地域をつくります。
 - 65歳以上の認知症をもつ人の割合は約6人に1人とされています。85歳では、3人に1人が認知症になるとも。そして、認知症にならなければ、認知症のかたを介護する側に回るので、認知症は切っても切り離せない社会になります。また、認知症の原因は40代から積み重なることもあり¹⁰、かつ、若くても発症するタイプの認知症もあります。認知症になっても安心して暮らせる地域づくりは、決して他人事ではありません。認知症のかたが不幸にも事故や事件を起こしてしまったときに市が支える制度¹¹づくりや、そもそも事故や事件を未然に防ぐために、認知症を抱えるかたの行動や気持ちを理解するための講習を通じ、実現します。

■ 7. 誰もが納得して最期を迎えられるようにします。

- ◇ 高齢の障害者が、納得できる最期を迎えられる体制をつくります。
 - 高齢の障害者の看取りに関わる看護・介護支援の課題は、入所施設において急速に増えています。障害者支援施設は原則として65歳未満の方が入所しますが、他に行き場所が無く、65歳以降も入所を続ける例が増え、本来看取りが想定されていなかった施設において対応を迫られるケースがあります。「施設から、地域へ」の流れはありつつも、長らく障害者支援施設で暮らしたかたにとっては、施設こそが家であり、地域の一部です。障害者支援施設が希望する場合、看取り介護研修・看取り介護に伴う業務的・心理的負担を緩和するための支援等を市が行えるようにします。
- ◇ 合葬墓や自然葬など、個人所有の墓以外の最後の在り方を人・ペット共に選べるようにします。
 - 遺族へかかる負担や、無縁仏となる不安をかかえながら最期を迎えることのないようにします。無縁墓、合葬墓、自然葬など、故人を偲ぶ象徴とな

¹⁰ 脳内の神経細胞がくっつくところ(シナプス)には、神経伝達物質の他に、アミロイドβという別の物質が放出される。アミロイドβがたまりすぎると神経伝達物質の通りが悪くなるので、ミクログリアという細胞が食べてくれる。でも、ミクログリアは、アミロイドβを取りこぼす。取りこぼしたアミロイドβが、加齢によってたまっていき塊になる(アミロイドブラークという)と、電気信号が伝わりにくくなる。アミロイドブラークは、40代からたまり始めると言われており、これが、アルツハイマー型認知症の原因と言われている。アルツハイマー型認知症の発症を遅らせる薬はあるが、治す薬はいまのところないので、早期発見が重要

¹¹ 愛知県大府市、神奈川県大和市などに事例あり

る場所を市営公園墓地等に充実させます。

- 家族同然であるペットについても、人同様、尊厳ある見送りができるようにします。

■ 8. 地域社会の中で子どもも大人も学びあえるようにし、異なる世代をつなぎます。

- ◇ 市内高校生の市内企業での実践型インターンシッププログラム(合計 120 時間程度)を実施し、将来の地域人材を育て、市内企業とのマッチングをはかります。
 - 議会でも提案し、市内高校生が卒業後市内企業への就職を選んでもらえるよう本市が働きかけることについては、2019 年度より取り組みが始まりました。今後、「短期間ではあるが、企業と高校生が本気で取り組み、双方の成長につながるインターンシップ」の実現を目指します。
- ◇ 市内中学生へ地域課題解決型のプロジェクト型学習を実施し、子どもの主体的な学びを引き出します。
 - 横須賀市・横須賀市教育委員会・横須賀商工会議所・市内中小企業の協力で実施されている「よこすかキャリア教育推進事業」を、中学 1～2 年生の 2 か年とし、同じ大人が同じ生徒と 2 か年連続的にかかわれるようにし、大人と生徒の信頼関係の中で学びのきっかけをつくります。

■ 9. 地域固有の文化芸能と景観を尊重した観光づくりをします。

- ◇ 陸路と海路を活用した観光コースづくりを行います。
 - 「モノ」(お土産や食事)よりも、「コト」(横須賀ならではの文化芸能体験)の消費を促進します。「これを買ってください」の売り込みよりも、「これをしてみたら楽しいですよ」という提案をします。新たに建物をつくらずとも、SNS の効果的な運用や、展示物の工夫で実現できる、横須賀ならではの体験を生み出します。
 - 歴史的文脈において全国的知名度の高い「浦賀」の地において、ドライドック等の遺産の保全や、歴史展示の充実化を進め、「行けば歴史がすぐわかる」ようにします。また、駅から徒歩で周遊できる観光コース整備をします。

■ 10. 多様な働き方を応援し、未来の雇用をつくります。

- ◇ 場所にとらわれない仕事を横須賀市内に創出します。
 - 製品のデザイン制作・美術作品の製作など、「どんな場所でもできるので、せっかくなら横須賀で」と仕事を横須賀市内で興してもらえるよう、空き家のシェアハウス兼オフィスとしての利用提供などを通じ支援します。

■ 11. 行政の取組みを「それ、本当に、必要ですか？」としっかりチェックします。

- ◇ 事業の社会的価値を評価する指標等を用いて、市外の専門家を交え行政の取組みを客観的かつ数値的に評価します。
 - 「社会的投資利益率(SROI)」などの指標をつかった分析や、各イベント・事業毎の経済効果が明確に示せる仕組みの市内への普及に努めます。これまでも、「EBPM(=Evidence-based Policy Making 日本語では、「証拠に基づく政策形成」)の推進」など、根拠なき政策の推進が無いよう質疑を行ってきましたが、継続して取り組みます。
- ◇ 今後増え続ける社会保障費を少しでも補うため、公共施設更新の実施計画については、さらに厳しいチェックを続けます。
 - 「FM 戦略プラン」が2019年度から実施予定ですが、今後約30年間の更新費用の将来推計からの30%削減を堅持できるよう、施設建設・更新をチェックします。
 - 空き家だらけの横須賀市で、老朽化した市営住宅を立て替えるのではなく、民間住宅入居への家賃補助方式を目指します。
 - 学校をコミュニティの中心とし、貸会議室・学童保育等で余裕教室を利活用します。公共施設としての学校は減らさず、その他の公共施設を減らし、その機能を学校へ集約します。

■ 12. 議会のありかたを見直します。

- ◇ (※新規) 議員定数・議員報酬・政務活動費を見直します。
 - 議員定数は2019年に41→40人となりましたが、横須賀にある4つの常任委員会から1名ずつ議員を減らせるのではないかと当初の考えのもと、3減を提案します。
 - 政務活動を行う上での経費なので政務活動費は必要だという考えを持って

いますが、政務活動費は先渡しではなく、精算払いで、認められた経費が後から振り込まれる方法で、経費節約がはかれるのではないかと考えています。

■ 13. (※新規) 地域防災のありかたを見直します。

- ◇ (※新規) 災害時、ペットもひと命を守れるようにします。
 - 市内では約2万頭¹²の犬が飼育されています。ペットは、家族です。災害時に、ペットを飼育する人が、ペットがいることを理由に危険な家屋等にとどまることのないよう、これまで議会で提案したペット同伴避難所の開設¹³なども含め、提案し続けます。
- ◇ (※新規) 福祉避難所の開設手順を見直します。
 - 生活に介助が必要なかたのための避難所が、福祉避難所です。現在の仕組みでは、一度地域の小中学校（震災時避難所）等に集まってから、福祉避難所に移動することとなっていますが、そもそも移動が困難なかたばかりですので、開設手順を見直すよう引き続き働き掛けます。

¹² 平成28年度 犬の登録延べ頭数は、23,913頭。<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/p1136226.html>

¹³ 平成31年3月定例議会 無所属みらい 代表質問。代表質問づくりは、会派で分担しておこなっていますが、防災に関する担当として質問作成しました。